

社会要請ニーズの共通点からみた保育士と 介護福祉士養成教育の方向性

大 林 博 美

1 はじめに

本学は、平成14年4月から福祉専攻科(介護福祉士1年課程)が開設される運びとなった。介護福祉士とは、福祉専門職の国家資格の一つであり、社会福祉士及び介護福祉士法の第2条2項に基づき、「介護福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上・精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある人の入浴、排せつ、食事その他の介護を行い、その人や介護者に対して介護に関する指導を行うことの業をおこなうものである。」

2001(平成13)年11月現在、厚生省社会・援護局人材課によると、介護福祉士は、256,293名(国家試験合格者147,09名、養成施設など卒業者109,202名)となっている。また、指定養成施設数は、2001年4月1日現在、354校(4年課程20課程、3年課程36課程、2年課程300課程、1年課程53課程)の413課程である。

以上のように介護福祉士養成教育は、2年課程が79.9%と最も多く4年課程数が4%と最も少ない。しかし、4年課程は、平成10年に7課程から比較するとその増加率は、2.8倍であり徐々にではあるが増えている。

1年課程は、社会福祉士或いは保育士の資格取得者である介護福祉士養成施設の2

種類がある。前者は3課程のみで0.7%、後者は50課程で12.0%であり、本学の福祉専攻科は後者に該当する。

このように福祉専攻科の養成期間は、介護福祉士養成施設の中で最も短い。その理由は、福祉専攻科が保育士の知識や技能の上に成り立つことを前提として、保育士教育課程と重複する科目が免除されているからである。

そこで、本学の福祉専攻科の設置にあたって保育士と介護福祉士の教育課程と教授内容を比較検討し、教授内容を構築するためのプロセスをレポートしたものである。

2 厚生労働省が期待する介護福祉士像と保育士資格取得者の特徴

(1)厚生労働省が期待する介護福祉士像とは

厚生労働省は、平成11年3月10日「福祉専門職の教育課程に関する検討報告会」で期待される介護福祉士像を「感性豊かな人間性と幅広い教養を身に付け、人の心を共感的に理解できる介護福祉士、意思疎通をうまく行なって介護を必要としている人との信頼関係を築くことのできる資質・能力を身につけることのできる介護福祉士、

要介護者や家族の状況を洞察し、個別的な介護を立案・実践すること、その結果を客観的に評価し、修正することができる専門職としての能力をもつ介護福祉士、このような能力を備えた上で、介護を必要とする人の生命や人権を尊重し、自立支援の観点から介護を展開することのできる実践家、増大・多様化する福祉需要に適切に対応するために、保健・医療・福祉従事者などが連携・協働し・介護サービスを総合的・一体的に提供するとともに、非専門職の人々とも連携し、要介護者が地域の中で安心して生活できるような力量をもつ介護福祉士、生涯学習者として自己研鑽することができる介護福祉士、後進の育成を通して介護水準の向上に努めることのできる介護福祉士としている。¹⁾

(2) 保育士資格取得者の特徴

保育士資格取得者の特徴は、2年間の保育士教育課程を経て児童福祉施設や保育実習の実習によって、ある程度の自己覚知や社会性を養う機会がある、環境が人生のはじめりに与える影響や大きさを学びその関わりの大切さを学んでいる、乳幼児の身体的、精神的、社会的な発達や発育の支援を行なう技術や知識をもっている、音楽、造形など楽しい雰囲気創りができる保育技能を習得している、豊かな感性を備えて子どもの心を理解しようという姿勢をもっている、と考えられる。

このような保育士資格取得者の特徴は、厚生労働省の介護従事者の育成方針である「福祉サービスに必要な専門的な知識や技術

の取得だけでなく、権利擁護に関する高い意識を持ち、豊かな感性を備えて人の心を理解し、意思疎通をうまく行い、相手から信頼される人の教育を目標にする必要がある。」²⁾に精通するものである。福祉専攻科の特徴は、基本的にこのような人材を育成することにあるので、より質の高い人材が育成されるのではないかと。

3 本学の目指す介護福祉士像

本学の福祉専攻科は、保育士資格取得者に介護福祉士の技術と技能を教育することによって、保育士の知識と技能を持った介護福祉士の育成を目指している。即ち、図1に示すように、本学の目指す介護福祉士像は「乳幼児から高齢者までを対象とした総合的な福祉職」であり、教育課程編成の考え方及び特色である。

具体的な教育指針としては、介護福祉士という職務の特性にかんがみ、人権の重要性と健康的な日常生活を整える科学的視点をもつ文化的かつ創造的で人間性豊かな専門的職業人の輩出を目指すというものである。

人権の重要性と健康的な日常生活を整える科学的視点とは、人権的思想、健康的思考、生活技術、先見性、行動力、問題解決能力、判断力をもち自立支援のできる人材を養うことを意味する。

文化的かつ創造的で人間性豊かな専門的職業人とは、創造性、文化的思考、表現力、やさしさ、共感、受容する能力、自己洞察力を意味し、これらを養い多様なケアニ-

1) 厚生省・「福祉専門職の教育課程などに関する検討会報告書」・介護福祉教育・第5号第2巻・p2～9・中央法規・1999

2) 同上

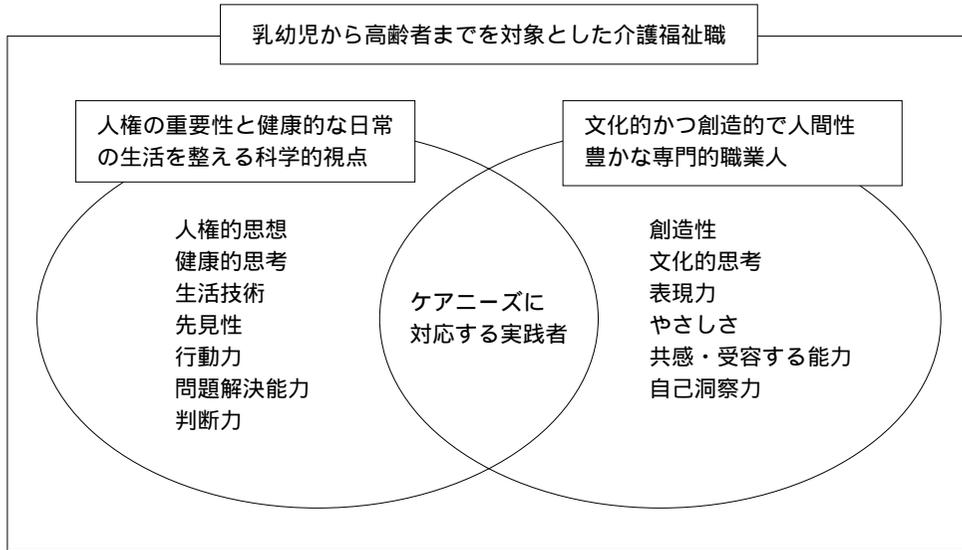


図1 本学の目指す介護福祉士像(教育課程編成の考え方及び特色)

ズに対応する実践者の育成を目指している。

4 保育士教育課程と介護福祉士教育課程(保育士資格取得者1年課程)の比較

(1) 保育士教育課程と介護福祉士教育課程

保育士教育課程は、平成15年度から改正される。(資料1)

この改正は「少子化や核家族の進行、女性の社会進出の本格化、就業形態の多様化、地域子育て機能の低下など、近年の児童を取りまく家庭や地域の環境は、著しく変化している。このような環境の変化は、児童福祉サービスに係る需要の増大や多様化・高度化をもたらしており、これに伴い児童福祉現場や児童福祉サービスの利用者から

は、専門性が高く、かつ、多様なサービスに対応することのできる資質の高い保育士の養成が求められている。」という背景がある。

そこで、保育士教育課程は「育児相談など家族支援を担い得る資質の涵養、学生の自主的学習能力の強化、保育所における乳児保育の一般化や障害児保育の浸透、保育所以外の児童福祉施設における保育士としての専門性の確保などの時代のニーズに沿った科目の強化を図る必要がある。」として、実践者の育成に重きをおいた教育が求められている。³⁾

一方、介護福祉士の教育課程は、平成12年に改正されたものである。(資料2)⁴⁾

介護福祉士が国家資格として1987(昭和62)年に誕生した15年前は、「超スピードの高齢化社会の到来があり、介護従事者は、

3) 全国保育士養成協議会講演記録「保育士養成課程カリキュラムについて・改訂の進捗状況講演者 大島恭二 平成13年2月24日」p165・会報 保育士養成 平成13年8月」社団法人 全国保育士養成協議会・2001年

4) (財)社会福祉振興・試験センター編集『社会福祉士・介護福祉士関係法令通知集』p70・第一法規・2001年

資料1 保育士養成課程案

	系列	教 科 目	単 位 数		留 意 事 項
			設置	履修	
教養科目		外国語(演習)	2以上) 名称変更(基礎科目)
		体育(講義)	1	1	
体育(実技)	1	1			
その他	6以上				
		小 計	10以上	8以上	設置単位数減少(12) 履修単位数減少(10)
必修科目	保育の本質・目的の理解に関する科目	社会福祉(講義)	2	2) 名称変更(社会福祉) 名称変更(社会福祉)
		社会福祉援助技術(演習)	2	2	
		児童福祉(講義)	2	2	
		保育原理(講義)	4	3	
		養護原理(講義)	2	2	
	教育原理(講義)	2	2		
	保育の対象の理解に関する科目	発達心理学(講義)	2	2) 授業形態変更(講義・実習) 単位数減少(3)
		教育心理学(講義)	2	2	
		小児保健(講義・実習)	5	5	
	小児栄養(演習)	2	2		
	精神保健(講義)	2	2) 新設	
家族援助論(講義)	2	2			
保育の内容・方法の理解に関する科目	保育内容(演習)	6	6) 授業形態変更(講義) 履修形態変更(選択必修) 授業形態変更(講義) 単位数減少(2) 履修形態変更(選択必修) 単位数減少(2)	
	乳児保育(演習)	2	2		
	障害児保育(演習)	1	1		
	養護内容(演習)	1	1		
基礎技能	基礎技能(演習)	4	4	単位数減少(6)	
保育実習	保育実習(実習)	5	5		
総合演習	総合演習(演習)	2	2	新設	
		小 計	50	50	単位数増加(47)
選択必修科目	保育の本質・目的の理解に関する科目		17以上	8以上) 大綱化(科目名)
	保育の対象の理解に関する科目				
	保育の内容・方法の理解に関する科目				
	基礎技能				
	保育実習	保育実習(実習)	2	2以上	履修形態変更(必修化)
		保育実習(実習)	2		
	小 計	19以上	10以上	設置単位数減少(20) 履修単位数減少(11)	
合 計			79以上	68以上	

資料2 別表第6(第7条関係)

教育内容	時間数	備考
老人福祉論(講義)	60	介護保険法に関することを含むこと。
リハビリテーション論(講義)	30	日常生活の自立支援及び生活の能力の維持向上の支援を中心とすること。
老人・障害者の心理(講義)	30	
家政学概論(講義)	30	老人及び障害者並びにそれらの家族の家庭生活の支援に必要な栄養、調理、被服及び住居の基礎知識について教授すること。
家政学実習(実習)	90	
介護概論(講義)	60	保健医療等他分野との関係、職業倫理及び人権の尊重に関することを含むこと。
介護技術(演習)	120	コミュニケーションの技法並びに住宅設備機器及び福祉用具の活用法を含むこと。
形態別介護技術(演習)	120	知的障害者及び精神障害者の介護並びに居宅における介護に関することを含むこと。
介護実習(実習)	360	
介護実習指導(演習)	30	事例研究を含むこと。
合計	930	

高齢化社会のもたらす重度化した要介護者の増加、疾病構造や家族機能の変化に対応する家事援助や家族介護に加え高齢者の重度介護も行なうことができるように、介護の専門的な知識や技能を身に付ける必要があった」。さらに、1996(平成10)年の社会福祉基礎構造改革が背景になり、福祉人材に「介護保険制度、人権擁護、他職種との連携、福祉用具などの理解、家事援助技術の強化、医学一般の知識の充実など」が求められ、2000(平成12)年に教育課程の見直しが図られた。⁵⁾

このように、共通する社会福祉ニーズに沿った実践者の育成に重きをおいた教育が保育士養成施設でも介護福祉養成施設でも求められている。

(2)6系列の分類

保育士教育課程の必修科目は、資料1の

ように 保育の本質・目的の理解に関する科目 保育の対象の理解に関する科目 保育内容・保育の方法の理解に関連する科目 基礎技能 保育実習 総合演習の6系列に分類されている。

一方、介護福祉士教育課程は、特に分類化されていないため、双方の教育課程を比較していくため、介護福祉士教育課程を 介護の本質・目的の理解に関する科目 介護の対象の理解に関する科目 介護の方法の理解に関連する科目 基礎技能 介護実習 総合演習として保育士教育課程の6系列にあわせてみた。

保育士教育課程の科目と介護福祉士教育課程の科目を線で結んで関係性を表している図をここでは関連図とよぶ。この関連図は、両課程での必修科目及び教授内容が「乳幼児期から老年期のどの時期までを学習しているか或いはどの時期を教育されて

5) 前掲「介護福祉教育」p7

いないことが明示している。」ことから、課題が明示されるというものである。

(3) 保育士教育課程と介護福祉養成 1年課程の関連図

保育と介護の本質・目的の理解に関する科目(図2)

保育の本質・目的の理解に関する科目は、「社会福祉」、「社会福祉援助技術」、「児童福祉」、「保育原理」、「養護原理」、「教育原理」がある。これらの科目は、社会福祉の専門職としての「保育士」を養成する上での理論的な基盤を学ぶ科目として位置付けられている。

養護と教育が一体となって豊かな人間性を持った子どもを育成する保育の営みを理解するために、児童・家庭を取りまく環境や社会福祉、児童福祉の理念・歴史・制度・役割などについて総合的に学ぶことを基盤に、保育の理念・本質・役割と機能、或いは保育の専門性について体系的に学ぶ。また、保育士の職務に深く関わる教育につい

ての原理等についても学ぶものとする。⁶⁾

介護の本質・目的の理解に関する科目は、「介護概論」、「老人福祉論」とする。これらの科目は、社会福祉の専門職としての「介護福祉士」を養成する上での理論的な基盤を学ぶ科目として位置付ける。特に「保育原理」、「養護原理」、「児童福祉」、「社会福祉」で総合的に学ぶことを基盤にして、「介護概論」で個人が人として尊厳を持って、家庭や地域で、その人らしい安心のある生活が送れるような自立支援のあり方を理解する。また、介護福祉の目的・歴史・倫理・制度・役割或いは介護、保育、養護の専門性について体系的に学ぶ。

今後の介護政策から障害者の自立生活の支援を行なう専門職としての役割は大きい。障害の概念・障害者の自立支援の考え方・障害者等に係る欠格事由の適正化などを含めた障害者福祉に関する内容を強化する必要がある。しかし、1年課程は「老人福祉論」、保育士教育課程では「児童福祉」が必修であるが、障害者福祉に関する知識が不

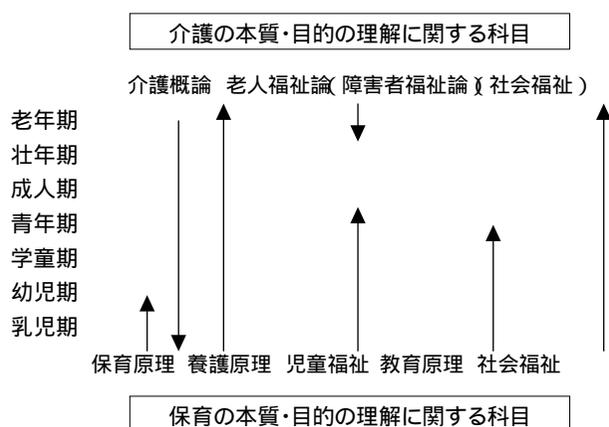


図2 保育及び介護の本質・目的の理解に関する科目

6) 前掲「会報 保育士養成」p85

十分である。

したがって、障害者福祉に関する内容は、「形態別介護技術」や「介護概論」において教授する。また、障害者当事者の特別講義を行ない、障害者の福祉工場や福祉用具展示会に参加するなど、障害者福祉に関する知識を補強していきたいと考えている。

保育及び介護の対象の理解に関する科目

保育の対象の理解に関する科目は、「発達心理学」・「教育心理学」・「小児保健」・「小児栄養」・「精神保健」・「家族援助論」がある。これらの科目は、保育が、児童の発育状態、健康状態など、個々の児童と集団を形成した際の児童の状況に応じて実践される必要があることから、保育の対象である児童の理解が基となる科目が位置付けられている。⁷⁾

介護の対象の理解に関する科目は、「障害者老人の心理」・「家政学概論」とする。介護は、利用者の年齢や障害の状態、或いは家

族や経済の状況に応じて実践される必要があることから、介護の対象である利用者の理解が基礎となる科目を位置付ける。

この系列の課題は、「障害児の心理」・「医学一般」・「精神保健」の科目が必修でないことにある。介護の対象者は、何らかの障害を加齢や病気や先天性奇形などによってもっている障害児から高齢者である。また、介護支援の内容からみると、障害を対象者が人生のどの時期に持つかによる心理的な影響を考慮した関わりが求められている。

したがって、介護福祉教育課程の「障害者・高齢者の心理」が必修であると同様に保育士資格をもつ介護福祉士は、「障害児の心理」の知識をもち養護や介護に携わることが、本学の目指す「乳幼児から高齢者の総合的な福祉職の人材の育成には欠かせない知識や技能である」と考える。しかし、この科目は保育士教育課程では必修ではない。

したがって、介護福祉教育課程の「障害者・高齢者の心理」で、「障害児の心理」も含む内容を教授するなどの工夫が必要と考

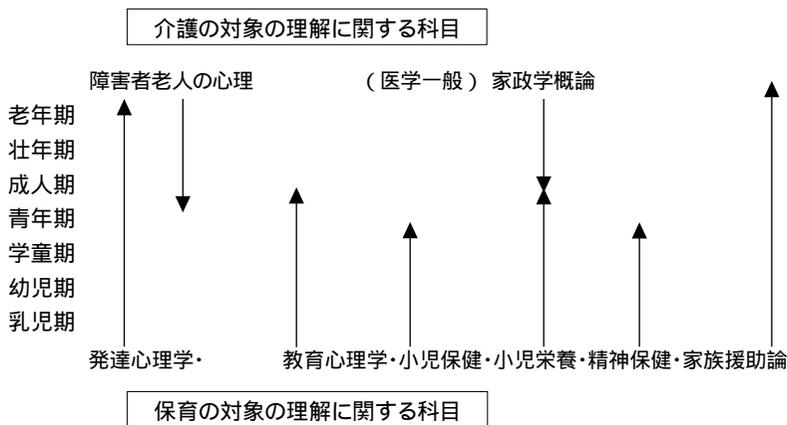


図3 保育及び介護の対象の理解に関する科目

7) 前掲「会報 保育士養成」p86

えている。

次に、医学的な知識は、介護保険制度の導入に伴い、保健・福祉・医療職の連携が益々重要になってきたことから厚生労働省が医学知識の強化を進めている。保育士教育課程の医学に関する科目は、「小児保健」である。この教授内容をみると、対象は小児であることから小児を中心とした病気や感染症の知識が主であるので、介護の対象者を理解するための医学知識を十分に教授されているとはいえない。介護福祉士に必要な医学知識とは、生活習慣病や難病など成人期以降の病気に対する知識や日常生活援助行為に必要な知識や薬の知識、或いは体系的な解剖学や生理学であると考えられる。しかし、1年課程では「医学一般」が必修ではない。

したがって、本学の福祉専攻科は生活習慣病や難病など成人以降の病気に対する知識を「形態別介護技術」で、日常生活援助行為に必要な知識や薬の知識を「介護技術」で、医学一般の知識の必要性について「介護概論」で教授していく。

最後に、介護の対象は、平成14年度から精神保健福祉法が施行されることを受けて、精神障害者を取りまく状況や対応などを学んでおく必要がある。また、昨今のさまざまな精神障害者の犯罪など介護を行なう上で「怖い」という印象のみを与えている事実がある。しかし、1年課程では「精神保健」は必修ではない。一方、保育士養成課程では、「精神保健」は必修となっているが、全国保育協会の教授内容からみると小児期を対象とする内容となっている。

したがって、本学の福祉専攻科では、成人以降の精神疾患や精神障害者の状況については、「形態別介護技術」で教授していく。

保育及び介護の内容・保育方法の理解に関連する科目

保育の内容・保育方法の理解に関連する科目は、「保育内容」、「乳児保育」、「障害児保育」、「養護内容」がある。その科目は、「保育所及びそれ以外の児童福祉施設において保育を実践するために必要となる保育の内

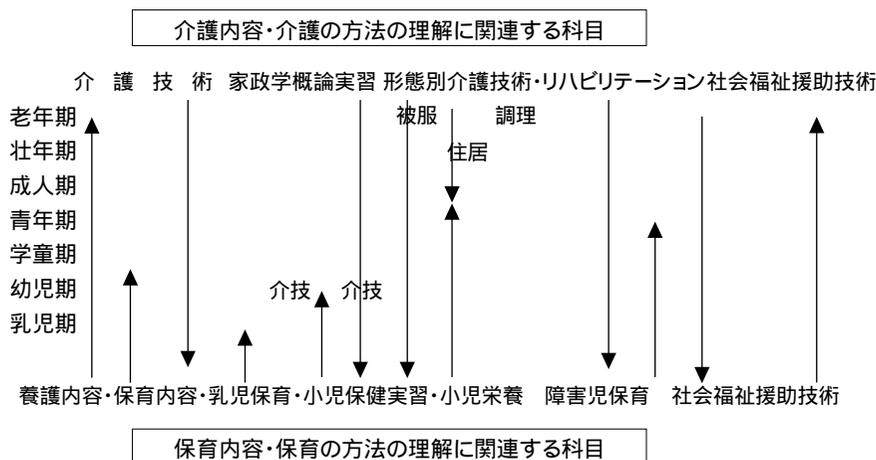


図4 保育及び介護の内容・保育方法の理解に関連する科目

容や計画の具体的な展開について学ぶことを目的として位置付けられている。⁸⁾

一方、介護の内容・介護方法の理解に関連する科目は、「介護技術」・「家政学概論」・「家政学実習」・「形態別介護技術」・「リハビリテーション」として考える。これらの科目は、在宅及び施設において介護を実践するための必要となる介護の内容が計画の具体的な展開について学ぶことを目的として位置付けられる。

保育及び介護の内容・保育方法の理解に関連する科目については、保育士教育課程と介護福祉教育課程が、どの時期にも関わっている。

日常生活援助という面から、「養護内容」・「保育内容」・「乳児保育」・「小児保健実習」と「介護技術」が、障害を理解するという面から「障害児保育」と「形態別介護技術」と「リハビリテーション」が関連する。

保育士教育課程で、様々な障害の理解と発達に応じた保育の方法や養護の方法などを学び、介護福祉士教育課程では、基本的に障害児が障害者になっていく上での二次

的な障害、障害児の発達の支援の考え方を人間の一生を通して体系的に学ぶことができる。

保育及び介護の基礎技能に関連する科目

保育の基礎技能に関連する科目は、「音楽」・「造形」・「身体運動」・「児童文化」(絵本・伝承的な文化・遊び)などがある。

これらの科目は、「保育の内容を展開する上で必要とされる技能を修得すること」を目的として位置付けられる。⁹⁾

一方、介護の基礎技能に関連する科目は、1年課程では必修ではない。しかし、社会福祉基礎構造改革の中では「介護福祉士の役割は、日常生活援助を行なうだけでなく、楽しい毎日をご過ごしていけるような働きかけが重要である。」としている。保育士教育課程では、介護に通じる様々な基礎技能が修得できる。保育士教育課程で学ぶ「伝承遊び、文化的な遊びなど」は高齢者との交流につながるものである。また、「音楽」を通じた関わりもできる。

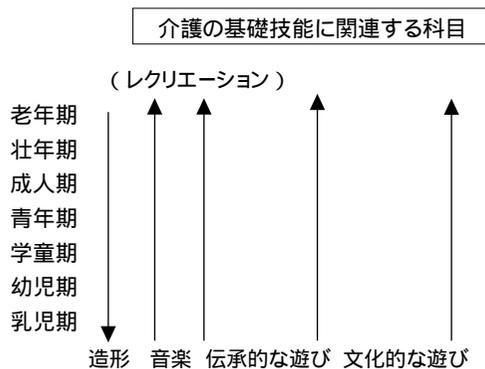


図5 保育及び介護の基礎技能に関連する科目

8) 前掲「会報 保育士養成」p87

9) 前掲「会報 保育士養成」p88

したがって、本学の福祉専攻科は、このような保育士教育課程で学ぶ技能を生かして、さらに乳幼児ではなく障害者や高齢者に対してさまざまなレクリエーション方法を身に付ける技法を学ぶ必要があると考え、「レクリエーション」を選択科目の中で設定した。また、保育の技能を生かして高齢者の社会的、文化的背景を考慮した関わりが出来るように「介護概論」で理論的に高齢者の社会的、文化的背景について学び、高齢者の好む歌を楽器で弾いて実習時に活用できるように関連科目の教授内容の連携を図っていく予定である。

保育及び介護実習

保育実習は、「保育所」や「児童福祉施設」の実習がある。これらの実習は、「実際を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を修得させる。家庭と地域の生活実態にふれて、子どもの家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うと共に、子育てを支

援するために必要とされる能力を養う。」ことが目的である。¹⁰⁾

介護実習は、「身体障害者療護施設」「特別養護老人ホーム」「老人保健施設」「訪問介護実習」がある。これらの施設や在宅の実習は、「介護の実際を実践し、介護福祉士として必要な資質・能力・技術を修得し、家庭と地域の生活実態にふれて、利用者の福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うと共に、介護や自立生活を支援するために必要とされる能力を養う。」ことが目的である。

保育士の児童福祉施設の実習は、14種類の中の1種類の実習施設に行くことが多い。その中で学生は障害児・障害者観や施設観をもち介護福祉の実習に臨むであろう。このことに対する実習への心理的な影響を配慮しなければならないと考える。したがって、入学時に比較的先駆的な考えをもつ障害児者の施設及び老人福祉施設や障害者の福祉工場などの見学を行い、障害者の自立を支援することの実際を学び、卒業前には

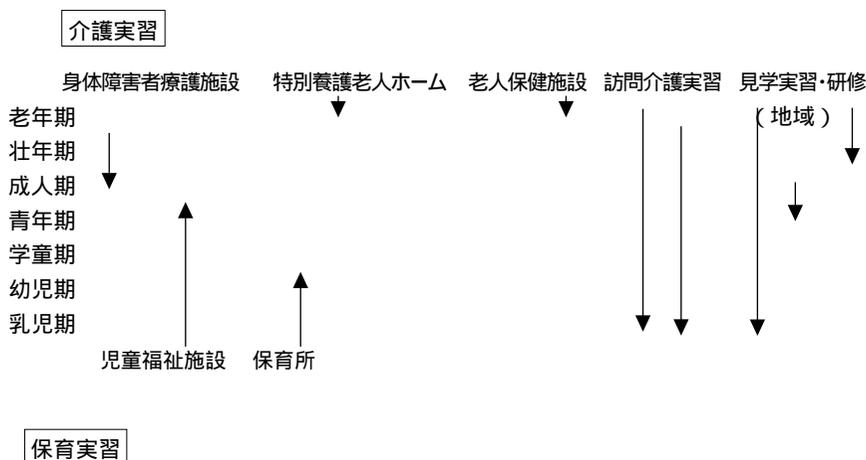


図6 保育及び介護実習

10) 前掲「会報 保育士養成」p89～p90

痴呆の研修を行い専門職としての関わり方を科学的に学ぶ機会を計画している。

保育及び介護の総合演習

保育の総合演習は、「保育に関わる課題分析・方法・実践・評価について学修させるものである。自発的・横断的な学習能力を修得させる。保育に関する現代的課題について、問題などの現状分析・検討を行なわせる。問題解決のための対応、判断方法などについて検討させるものである。」という目的がある。

例えば、「少子化への対応 虐待世代連鎖 長時間保育と子どもの発達 少子高齢化と世代間交流」などが上げられているが、これは、学生自身が自主的に現在どのような保育ニーズがあるのかということ学ぶ機会になる。¹¹⁾

介護の総合演習は、特に必修ではない。しかし、保育や介護に関する現代の課題について、人間の福祉について「介護概論」で

考えていきたい。図6に例を挙げてみたが、保育と介護にかかる課題について考えさせるきっかけになるのではないかと考える。

5 まとめ

以上から、保育士と介護福祉士の教育課程の教授内容を比較検討してみると、保育士教育課程は、児童福祉分野を対象としていることから1年課程で免除されている科目は介護福祉士に必要な知識が十分ではないということがわかった。

本学の福祉専攻科は「乳幼児から高齢者を対象とした総合的な福祉職」の育成を目指すものである。したがって保育士教育課程をふまえて介護福祉士教育課程の教授内容の充実を図った。

これから、福祉専攻科で学び卒業していく学生が、命のはじまりから終わりを連続した過程として考えられるようになり、幼児教育科での体験や経験を介護に生かし、

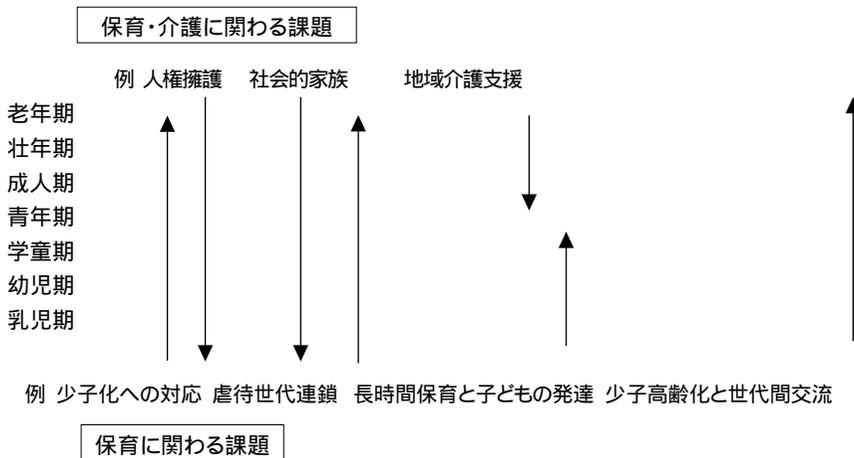


図7 保育及び介護の総合演習

11) 前掲「会報 保育士養成」p84

介護の体験や経験を幼児教育に生かしていくことができるように育成したいと考える。

筆者は、幸いにも1年間ではあるが、幼児教育科に所属していたことで幼児教育科の教育課程の中で貴重な経験をさせていただいた。なによりも幼児教育の諸先生方との交流はから学んだことは、大変参考になり、紙面をお借りして感謝申し上げます。